

長良川のシンボルフィッシュ

サツキマスが今年も長良川に戻ってきました。

岐阜県世界淡水魚園水族館“アクア・トト ぎふ”（所在地：岐阜県各務原市川島笠田町、館長：堀 由紀子）では、長良川のシンボルフィッシュ、今や溪流釣りを楽しまれる方からは、「幻の魚」ともいわれる天然のサツキマスを表示しています。毎年サツキの咲くころに海から遡上してくるサツキマス。今年も新たに長良川でとれた天然のサツキマスを、約20尾追加展示いたしました。

体長は40cmほどで、3階と4階の滝つぼ水そうで以前からいる古株のサツキマスや、アマゴやイワナたちと一緒に悠々と泳いでいます。

サツキマスは、アマゴが晩秋に伊勢湾に降海し、海で大きくなってサツキの花がさくころ再び川に戻ってきたもの（いわゆる降海型）で、その体は銀色にキラキラと輝き、とてもキレイです。

最近では数が減少しており、良好な個体群が見られるのは長良川ぐらいと言われていますが、それでも数は減ってきているようです。

天然のサツキマスを展示している水族館は全国的にも珍しく、長良川の自然環境をご紹介している当館ならではの展示です。長良川のシンボルフィッシュ、サツキマスをぜひご覧くださいませ。

長良川のシンボルフィッシュ

「天然のサツキマス」

展示場所：水族館4階、3階 滝つぼ水そう

料 金：入館料のみでご覧いただけます

展示内容：天然サツキマスの展示



サツキマス

学名： *Oncorhynchus masou ishikawae*

英名： Cherry salmon

大きさ： 25～50cm

国際自然保護連合（IUCN）： 絶滅危惧 I B 類

分類： サケ科（遡河回遊魚）

アマゴのなかには一生を川で過ごすものと、サケのように海に下るものがあります。海に下って遡上してきたものがサツキマスといわれます。

秋、前の冬に生まれた若魚の体からアマゴの特徴のパーマークは消え、銀毛（スモルト）となり、川を下っていきます。伊勢湾の沿岸でエビや小魚を食べて数カ月のうちに急速に成長し、そして春、サツキの花がさくころ再び川をのぼりはじめ、秋、上～中流の産卵場所で産卵、放精の後、約2年の一生を終えます。

川岸にサツキの花が咲く季節に、海から川に上ってくるのでこの名前がついたといわれ、かつては西日本に広くすんでいましたが、今では数が減り、良好な個体群が見られるのは長良川ぐらいといわれています。サ

<この件に関する報道関係の方からのお問い合わせは>

岐阜県世界淡水魚園水族館 担当/北川・高木・大島 TEL:0586-89-8200 FAX:0586-89-8201

<お客様からのお問い合わせ先は>

岐阜県世界淡水魚園水族館(アクア・トト ぎふ) TEL:0586-89-8200 FAX:0586-89-8201

公式ホームページ <http://www.aquatotto.com>

〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町 1453 河川環境楽園内